

令和3年度 学校評価報告書

学校番号(小45) 長崎市立三原小学校

1 教育目標

「心豊かで時代を生き抜くたくましい子どもの育成」
～確かな学力，たくましい体力，豊かな心力をもつ三原っ子～

2 学校経営方針

- | | | |
|--------------------|------------------------------|--------------------|
| (1) 豊かな心力(笑顔)の育成 | ●特別の教科「道徳」の授業実践の充実 | ●特別支援教育の理解と充実 |
| ●「あ・は・は運動」 | ●「さ・し・す・せ・そうじ」の徹底 | ●仲良し触れ合いあいさつの定着 |
| ●あったか言葉の醸成 | ●くつならべの徹底 | ●こころの天気 |
| | | ●「はさみあるき」の徹底 |
| | | ●「三原っ子の約束」の確認と活用 |
| (2) 確かな学力(真剣)の育成 | ●「主体的・対話的で深い学びの実現」立 | ●本校独自の「学びのスタイル」の確立 |
| ●単元を見通した授業づくり(全教科) | ●「学習の約束・心構え」「家庭学習の手引き」の確認と活用 | ●「対話」を取り入れた学びの工夫 |
| | | ●ICT活用 |
| (3) たくましい体力(感動)の育成 | ●体育の授業改善による体力向上 | ●運動の習慣化 |
| ●健康づくり | | ●食育 |

3 重点目標

- | | | | |
|--------------------|-------------------------------|-------------------------|-----------------------|
| (1) 豊かな心力(笑顔)の育成 | ・道徳教育の充実と推進 | ・特別支援教育の充実 | ・基本的な生活習慣の形成と自発的な実践態度 |
| | ・思いやりのある心豊かな子どもの育成 | ・新しい平和教育の理解と実践 | |
| | ・いじめ対策基本方針に基づいた確実な対応・実践 | | |
| | ・係・委員会活動，及び「なかよしタイム」の活性化 | | |
| | ・児童会活動における自治力の高揚 | ・「あ・は・は運動」の習慣化 | |
| (2) 確かな学力(真剣)の育成 | ・授業改善による学力向上 | ・「あじさいスタンダード」の具現化，充実を推進 | |
| | ・「言語活動」の重視 | ・授業研究による指導力の向上 | |
| | ・基礎的・基本的な学習内容の定着(基礎学力の定着) | ・図書館教育の充実 | |
| | ・外国語活動の指導の充実 | ・校内研修の活性化 | |
| (3) たくましい体力(感動)の育成 | ・運動に親しむ態度の育成 | ・保健的習慣の確立 | ・安全教育の推進 |
| | ・給食習慣の確立と感謝の気持ちの醸成 | ・アレルギー児童への確実な対応 | |
| | ・定期的な縦割り遊びの実施 | ・外遊びの奨励 | |
| | ・「あじさいスタンダード体力づくり編」の具現化，充実を推進 | | |

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保 護 者	教 職 員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	94	92	100	教育目標及び学校の雰囲気について、児童や保護者の評価が高い。このことは、学校だより等で学校側の取組が十分に伝わっているからだと思う。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	95	93	92	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			92	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			83	

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保 護 者	教 職 員	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	94	90	100	「教職員は悩みや相談に親身に対応している」の保護者の評価が、学年によって大きな差がみられた。保護者の相談に対して、一方的な説明や曖昧な回答をしていないか振り返る必要がある。保護者の話をよく聞き、不安の解消に向けての対応を共に考えていく姿勢をもつように努めていきたい。
		挨拶をよくしている	89	88	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	94	97	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	97	85	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	90	86	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	98	100	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	99	92	100	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	99	85	100	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	97	88	83	「わかりやすい授業を行っている」の保護者と教職員の評価が低い。教職員の評価の低さは、今以上に授業改善を行ってきたいという向上心の表れであると肯定的に捉えたい。また、キャリア教育については、学年によって取組に差がみられる。キャリア教育についての研修を再度行う必要がある。「長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである」の児童の回答率が15%であった。多くの児童が、好きかどうか回答できなかった理由を検証したい。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	93	83	83	
		家庭学習の習慣が身に付いている	88	78	92	
	キ ャ リ ア 教 育	将来の自立に向けて適切に指導している	89	75	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	84			
健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	93	100	「基本的生活習慣が身に付いている」の児童の評価が低い。特に、高学年児童の評価が低かった。就寝時間が、遅くなっている児童が多いように感じる。メディアコントロールの取組に力を入れ、時間管理ができる児童を育てていきたい。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	80	83	100	
		体力向上に努めている	92	86	100	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	90	91	100	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	99	93	100	「学校はPTAと地域との連携がとれている」の児童への質問内容を、地域・育友会行事への参加意欲を問うものに変更した。その結果、低学年は参加意欲が高いが、高学年は低いということがわかった。地域に愛情をもつ子を育てるためにも、地域・育友会行事への参加意欲を高めさせていきたい。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	97	93	75	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	76	94	75	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			92	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	96	92	100	懸案事項であった、固定遊具の撤去及び設置が進み、教育環境が充実してきた。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			92	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- 昨年度から、コロナ禍により地域や育友会との連携が思うようにとれない状況が続いた。このような中、「対話」をキーワードとして双方向の情報のやり取りができるように、学校だよりやホームページによる情報発信を積極的に行った。学校だよりを読まれた地域の方が、来校時に学校の取組について感想を話してくださったり、掲載された写真をいただきたいという要望が届いたり、対話の形が生まれてきている。
- GIGAスクール構想に基づく、一人一台の端末使用に関しては、全ての学年で授業時間での活用がなされている。また、ICT支援員を講師に招いての研修も何度か行い、教員の指導力の向上に意欲的に取り組んだ。放課後には、教員同士で効果的な活用法について情報交換を行う姿が頻繁に見られ、ICTを活用した授業改善が進められてきている。
- 地域に愛着をもつ気持ちが、十分育っていないように感じる。まずは、地域を題材にした学習を行っ

6 学校関係者評価

- 基本的な生活習慣については、全体的に寝るのが遅くなっているのではないかな。
- 朝、登校の様子を見ていると、子どもたちの登校時間がこれまでより早くなっているように感じる。
- GIGAスクール構想によって、一人一台端末を持つようになった。保護者としては、いじめにつながるものが起こるのではないかと心配なのではないかな。
- 幼稚園の年長児でもオンラインゲームを行っている。入学してすぐに、情報リテラシー等を学ばせる機会を設けてもよいのではないかな。
- 大人が、挨拶をすることも大事だと思う。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 基本的な生活習慣を身に付けさせるために、長崎市が示している「あ・は・は運動」を基本に、メディアコントロールの取組にも力を入れ時間管理ができるようにさせたい。
- 次年度から端末の持ち帰りが実施される。これまで以上に、情報リテラシーや端末の使い方の指導に力を入れていく必要がある。
- 今年度は、地域を学ぶ機会がほとんどなかった。次年度は、地域を学ぶ機会を設け、人とのつながりを生み出させていきたい。
- 子どもたちの登校時間が早まったのは、学校に来る楽しみが子どもたちにあるからだと思う。これからも、子どもたちの登校意欲を高めさせる、魅力のある学校づくりを行っていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。